

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果の概要と説明(第3学年対象)

1 平均正答率

国語	平均 正答率	学習指導要領の内容						観点別			問題形式別		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む 態度	選択式	短答式	記述式
		言語の特徴 や使い方に 関する事項	情報の扱い 方に関する 事項	我が国の言 語文化に関 する事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと						
第三中	73	78.2	41.9	69.6	69.4	41.9	77.0	72.0	67.3		75.2	75.5	63.1
東京都 (公立)	70	73.6	43.8	70.9	65.7	43.8	70.8	69.8	63.8		75.3	71.2	58.2
全国 (公立)	69.0	72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9	69.0	62.3		73.7	70.3	57.4
東京都 比較	+3.0	+4.6	-1.9	-1.3	+3.7	-1.9	+6.2	+2.2	+3.5		-0.1	+4.3	+4.9
全国 比較	+4.0	+6.0	-4.6	-0.6	+5.5	-4.6	+9.1	+3.0	+5.0		+1.5	+5.2	+5.7

数学	平均 正答率	学習指導要領の領域						観点別			問題形式別		
		数と式	図形	関数	データの 活用			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学 習に取り組 む態度	選択式	短答式	記述式
第三中	60	66.4	51.1	52.5	63.7			66.7	46.6		57.1	74.5	46.6
東京都 (公立)	54	59.5	47.6	47.1	59.5			62.4	39.7		55.2	68.2	39.7
全国 (公立)	51.4	57.4	43.6	43.6	57.1			59.9	36.2		52.6	65.7	36.2
東京都 比較	+6.0	+6.9	+3.5	+5.4	+4.2			+4.3	+6.9		+1.9	+6.3	+6.9
全国 比較	+8.6	+9.0	+7.5	+8.9	+6.6			+6.8	+10.4		+4.5	+8.8	+10.4

理科	平均 正答率	学習指導要領の領域						観点別			問題形式別		
		エネルギー	粒子	生命	地球			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
第三中	52	41.7	56.8	61.9	44.3			49.3	53.1		51.9	20.8	57.9
東京都(公立)	51	42.8	51.8	60.1	44.9			46.9	52.3		50.6	25.3	55.3
全国(公立)	49.3	41.9	50.9	57.9	44.3			46.1	51.0		49.6	24.8	53.5
東京都比較	+1.0	-1.1	+5.0	+1.8	-0.6			+2.4	+0.8		+1.3	-4.5	+2.6
全国比較	+2.7	-0.2	+5.9	+4.0	+0.0			+3.2	+2.1		+2.3	-4.0	+4.4

2 無回答率

国語	平均 無回答率	問題形式別		
		選択式	短答式	記述式
第三中	3.5	0.1	3.5	10.4
東京都(公立)	4.0	0.7	3.6	11.1
全国(公立)	4.3	0.6	3.5	12.8
東京都比較	-0.5	-0.6	-0.1	-0.7
全国比較	-0.8	-0.5	0.0	-2.4

数学	平均 無回答率	問題形式別		
		選択式	短答式	記述式
第三中	7.2	0.7	6.4	13.3
東京都(公立)	9.9	0.6	7.3	20.0
全国(公立)	10.8	0.5	7.7	22.1
東京都比較	-2.7	0.1	-0.9	-6.7
全国比較	-3.6	0.2	-1.3	-8.8

理科	平均 無回答率	問題形式別		
		選択式	短答式	記述式
第三中	2.8	0.4	2.7	9.8
東京都 比較	3.4	0.4	4.3	12.0
全国 (公立)	3.4	0.3	4.3	12.6
東京都 比較	-0.6	0.0	-1.6	-2.2
全国 比較	-0.6	0.1	-1.6	-2.8

3 ここまでのご説明

- 正答率とは正答した割合なので、全問正答だと「100. 0」になります。「100点満点中」と同様に考えてください。
- 「1 平均正答率」の結果から、いずれの教科についても、本校は全国平均や東京都平均を上回っていることが分かります。
- 昨年度の、最も平均正答率の高かった都道府県では、全国平均正答率より、国語では「+4. 4」、数学では「+5. 8」ですので、本校は、最も平均正答率の高い都道府県の中にあれば中位、もしくはそれ以上ということになります。

【国語】

- 「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」につきましては、出題が1～2問しかありませんでしたので、1人・2人の正答・不正答だけで大きく数値が変わってしまうため、表の数値はあまり参考になりません。
- 顕著なのは観点別では「思考・判断・表現」、問題形式では「記述式」の平均正答率が高いことです。一斉授業だけではなく、小グループで互いに考えを表現し合って、考えの違いや同じ考えの違った表現に触れてきた学習や、自分の考えを正解・不正解とは関係なく論理的に記述してきた学習などの効果の現れではないかと推測されます。

【数学】

- 全体的にとっても良好といえます。少人数授業は都内のいずれの中学校でも実施していると思いますが、グループの編成方法や進度を合わせながらもそのグループに適した指導方法の効果が現れているのではないかと推測されます。
- 中でも「思考・判断・表現」「記述式」の正答率が高いのは、国語と同じ要因と思われます。

【理科】

- 「短答式」につきましては、出題が1問しかありませんでしたので、表の数値はあまり参考になりません。
- 荒川区では、区学力調査でも小・中学校ともに「理科」「社会」が全国平均正答率を下回るなど課題があるところですが、本校においても全国平均・東京都平均を若干上回る程度にとどまっています。
- 学習指導要領の領域「エネルギー」「地球」については、全国平均正答率とほぼ並んでしまっています。第1分野の物理的な学習、第2分野の地学的な学習の指導を工夫して改善していく必要があると考えています。

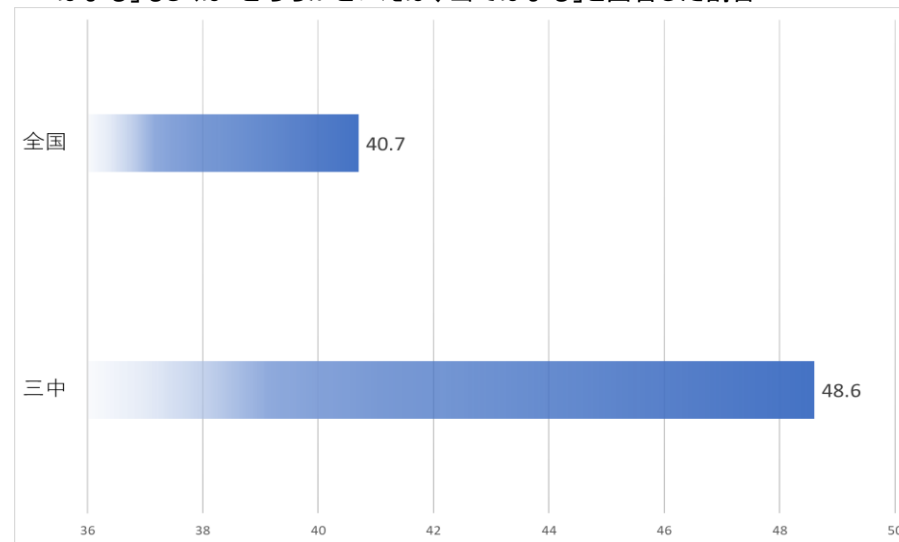
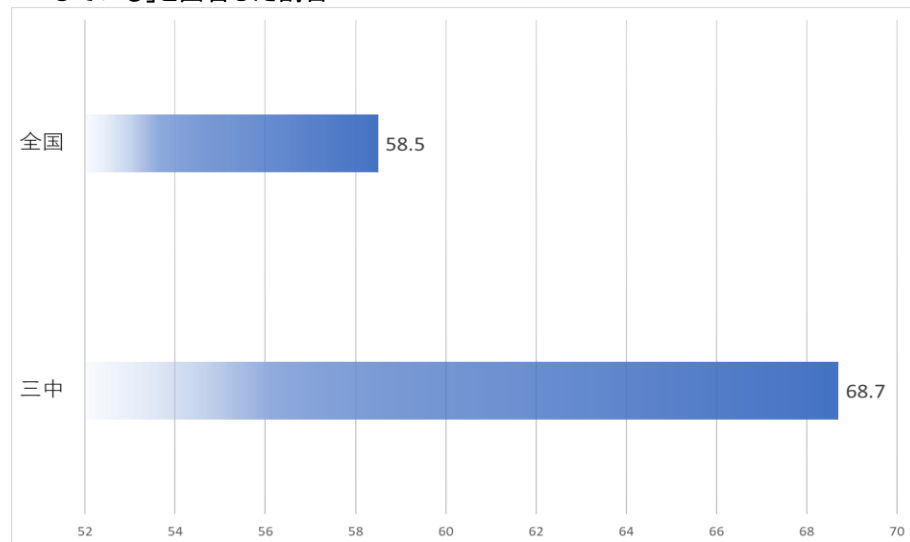
【無回答率】

- 無回答とは何も回答しなかったことであり、要因としては「分からないから回答しない」「面倒だから回答しない」など様々です。
- 「2 無回答率」の結果から、記述式の無回答率が全国平均・東京都平均を大きく下回っていることが分かります。選択式は選ぶだけで「面倒だから回答しない」という原因はあまりありませんが、記述式では「考えるのが面倒」「書くのが面倒」「時間をかけても不正解だったらむなしい」などあらゆる壁を乗り越えて回答する必要があります。

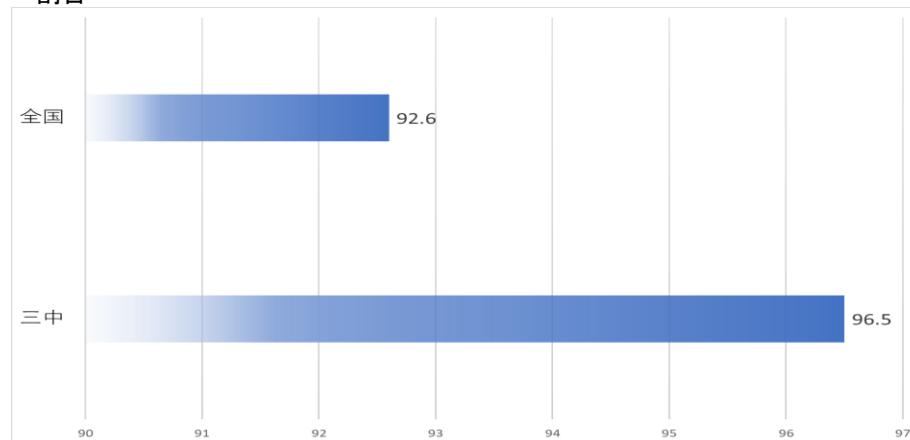
- 本校では、ワークシートやノートに書く、自分の考えを論拠を明らかにして書くなど、記述させる機会を多くとっています。したがって、あきらめることなく粘り強く記述するという習慣が身に付いてきているものと思われます。

4 生徒質問紙調査の集計結果より、すべての教科等の学力向上にかかわる要素

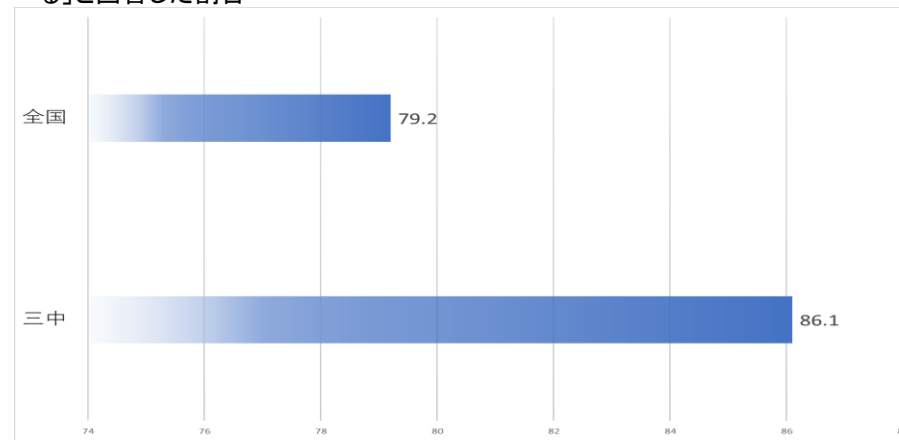
- (1)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」で、「よくしている」もしくは「ときどきしている」と回答した割合
- (2)「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合



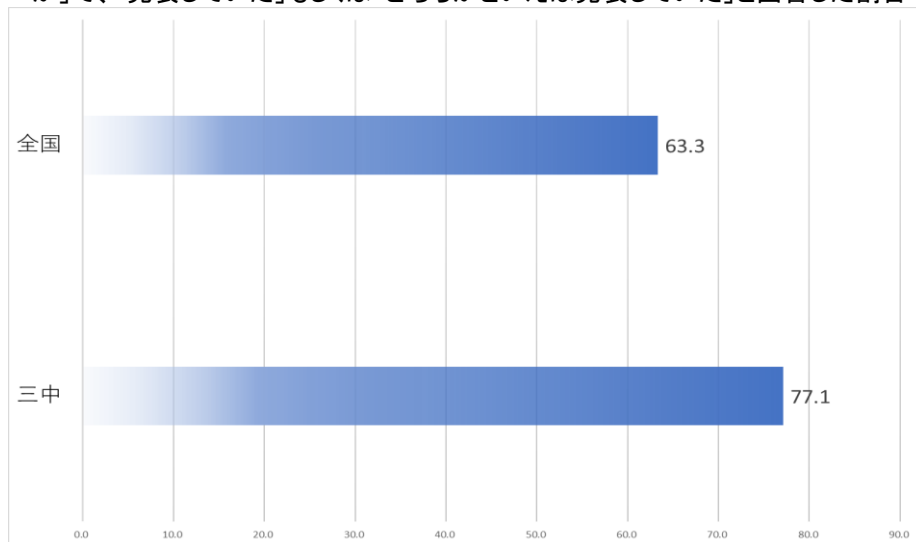
- (3)「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」で、「役に立つと思う」もしくは「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答した割合



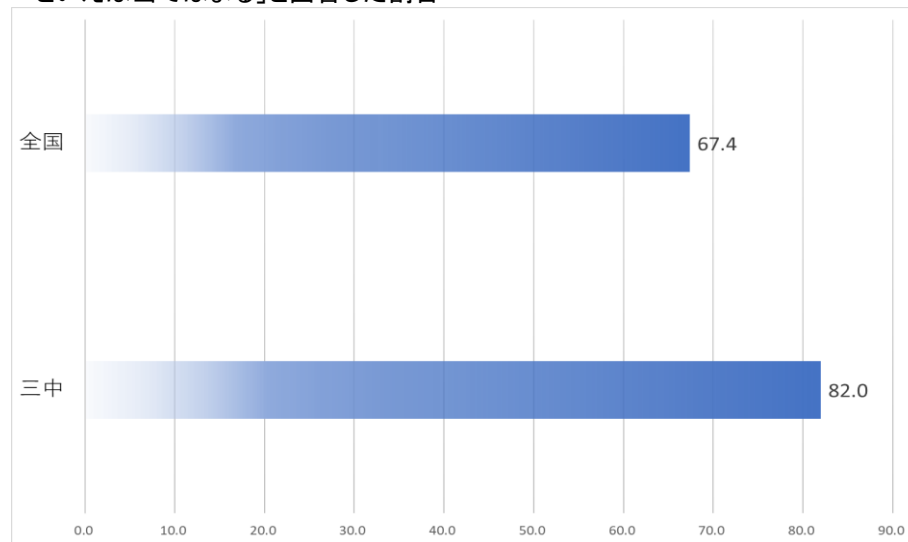
- (4)「1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」で「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合



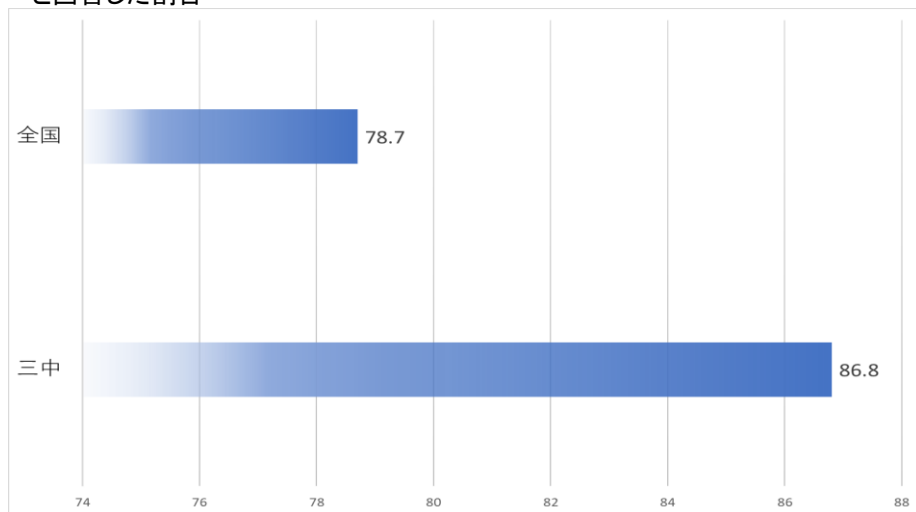
(5)「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」で、「発表していた」もしくは「どちらかといえば発表していた」と回答した割合



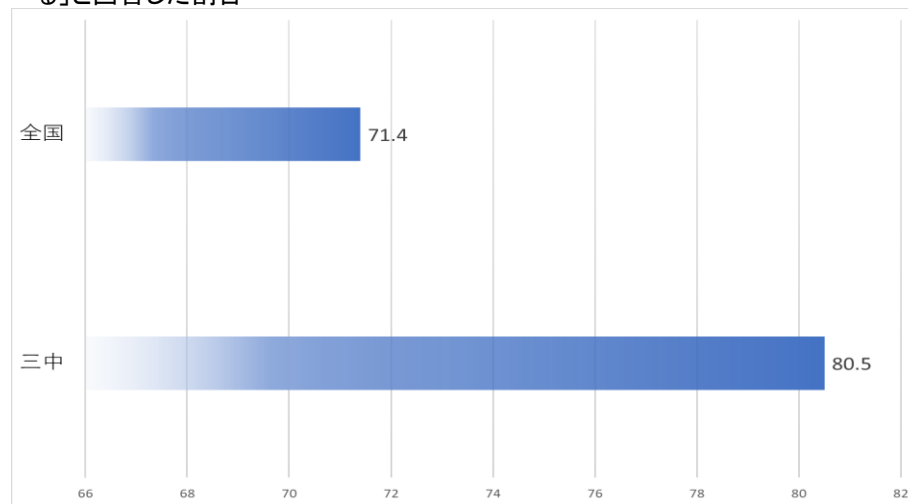
(6)「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



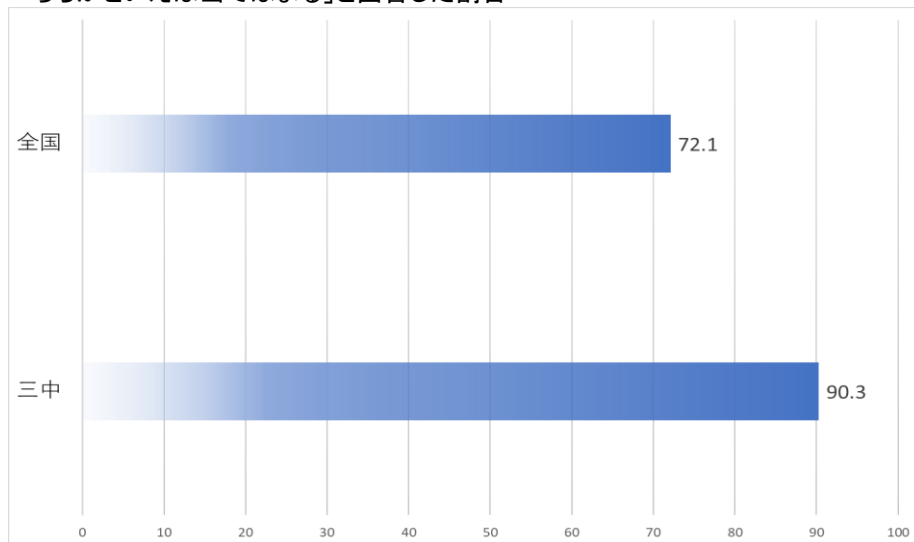
(7)「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



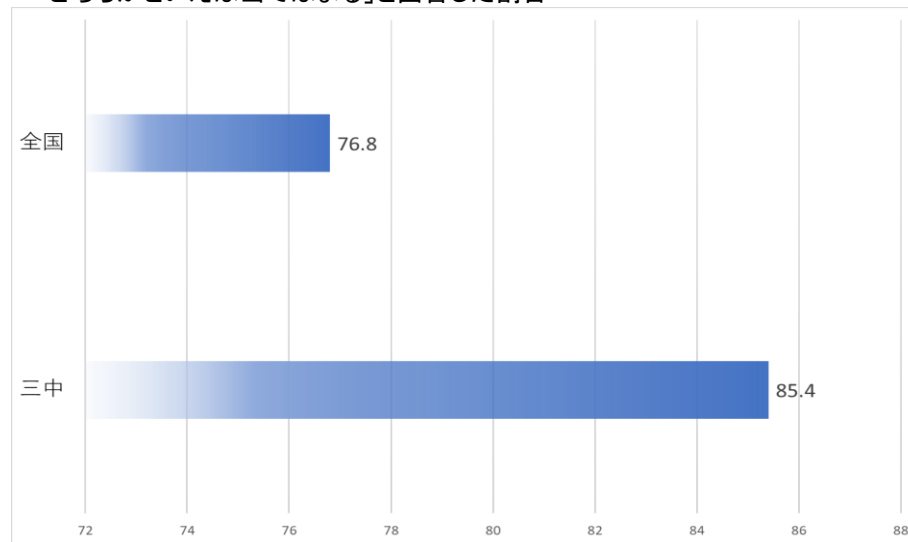
(8)「学級活動における学級の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合



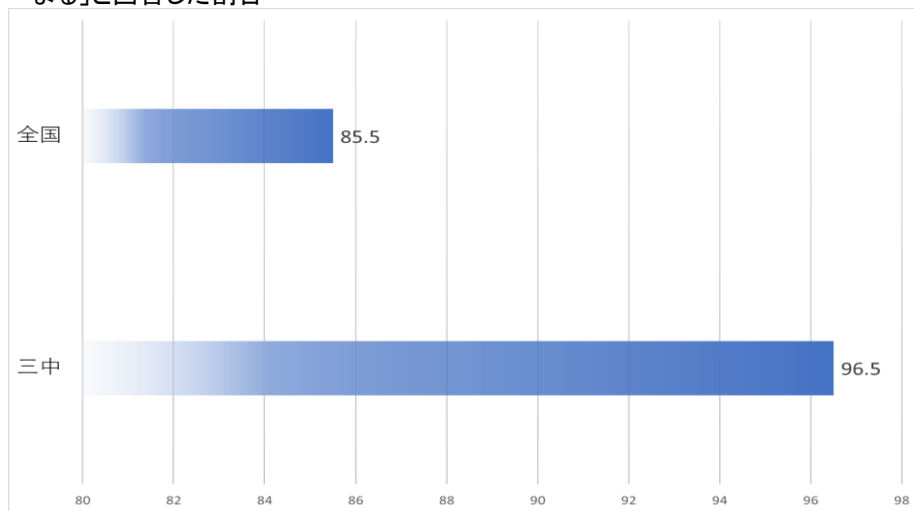
(9)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



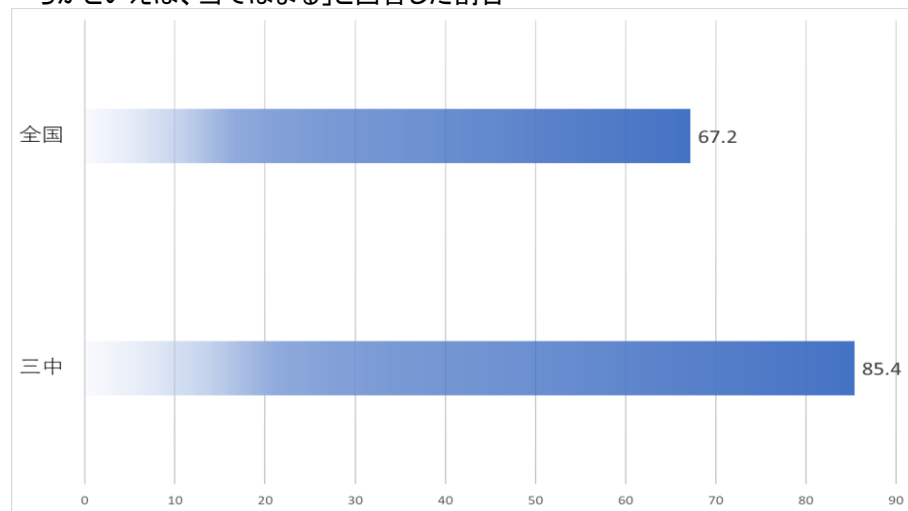
(10)「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



(11)「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

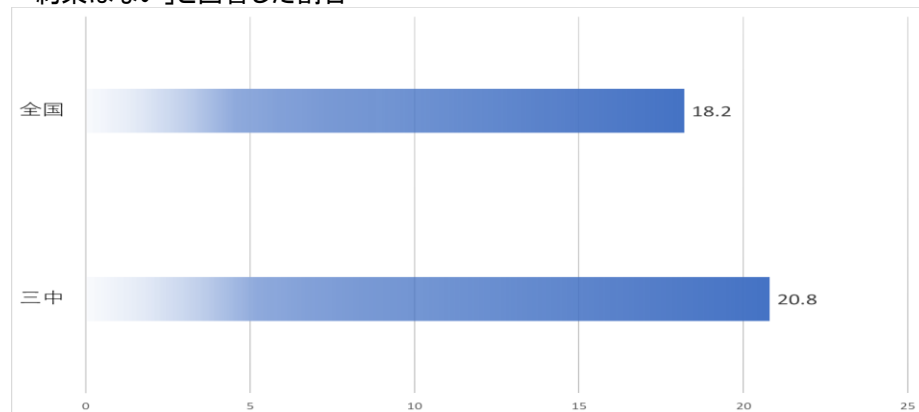


(12)「1・2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

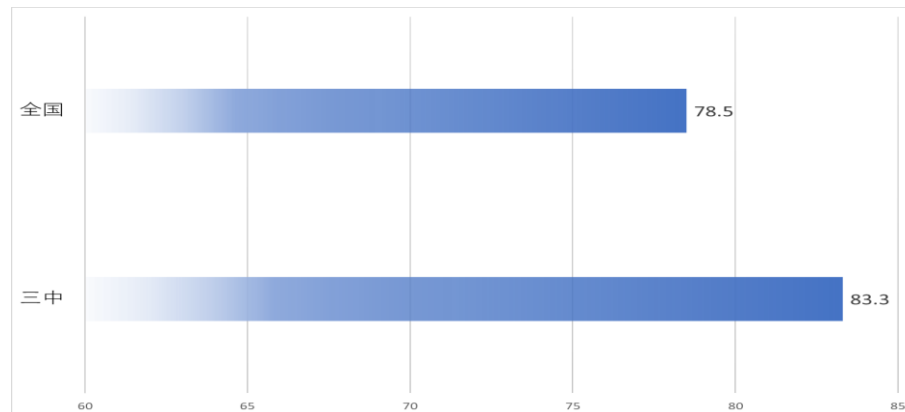


5 生徒質問紙調査の集計結果より今後の課題(全国平均より上回っている以内にかかわらず)

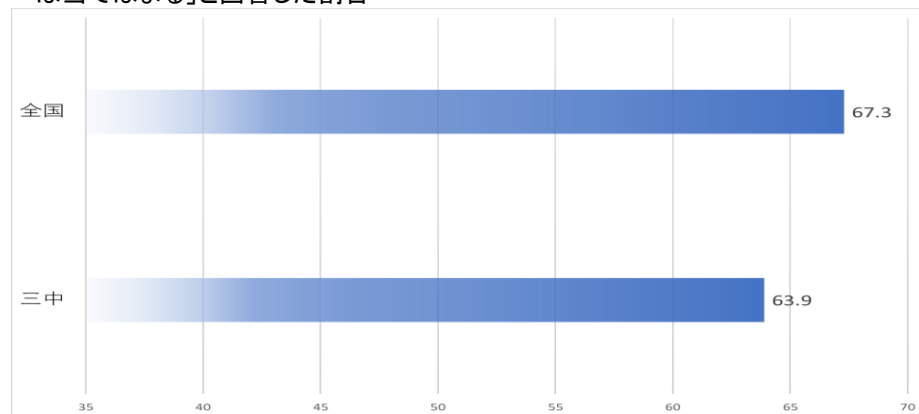
(1)「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」で、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータはもっているが、約束はない」と回答した割合



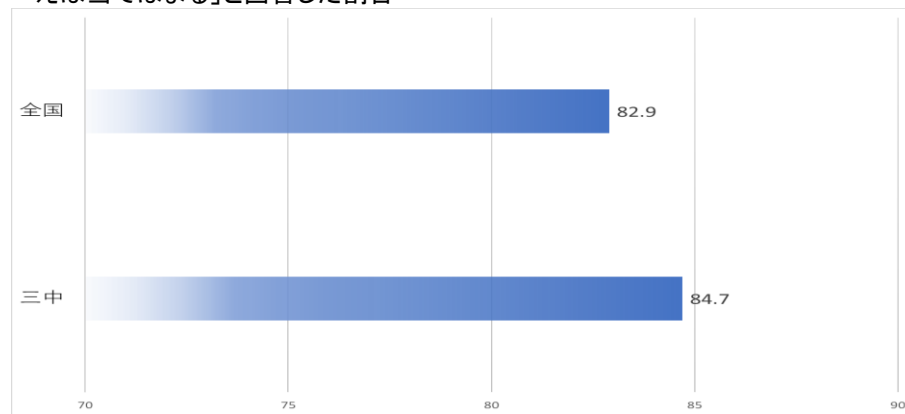
(2)「自分には、よいところがあると思いますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



(3)「将来の夢や目標をもっていますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



(4)「学校に行くのは楽しいと思いますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



- 学力調査の結果は、「測れる学力」のうちの一部にしか過ぎず、この結果が「学力」というわけではないことに十分ご注意ください。
- また、今回お示した学力調査の結果、生徒質問紙調査の結果は、いずれも平均値であり、あくまでも本校の傾向を表したもので全ての子どもにそのまま当てはまるものではありません。これらの結果は、私たち教職員が指導内容や方法を振り変えるための材料です。
- 本校の理念「一人一人の子どもを大事にする」をもとに、「その子どもに応じた指導をしていく」、それが「学校」です。